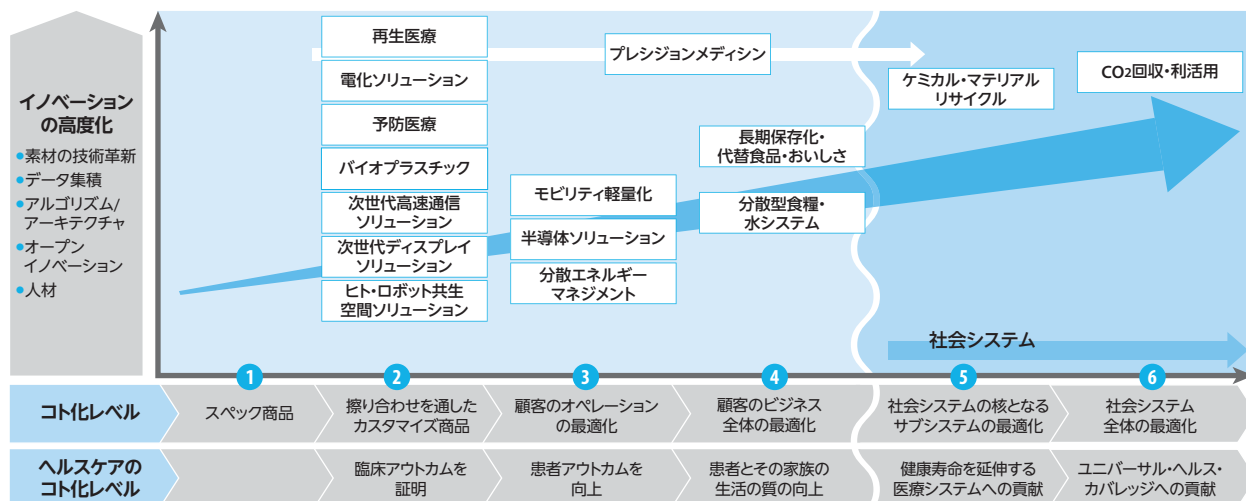


「コト化」と「イノベーションの高度化」を通じてビジネスモデルを変革

MCHCは、ポートフォリオの柱となる成長事業を拡大していくためには、ビジネスモデルを抜本的に変えていく必要があると考えています。そこでKV30では、顧客の要望に応える製品供給を中心としたビジネスモデルにとどまらず、社会の要請に応える付加価値の高いソリューションを

提供するビジネスモデルへと変革、すなわち、コト化レベルの向上を図り、問題解決・最適化の範囲を社会システム全体へと広げていきます。MCHCグループは、このコト化レベルの向上とイノベーションの高度化の両側面から成長事業の付加価値を高め、収益力の強化を図っていきます。

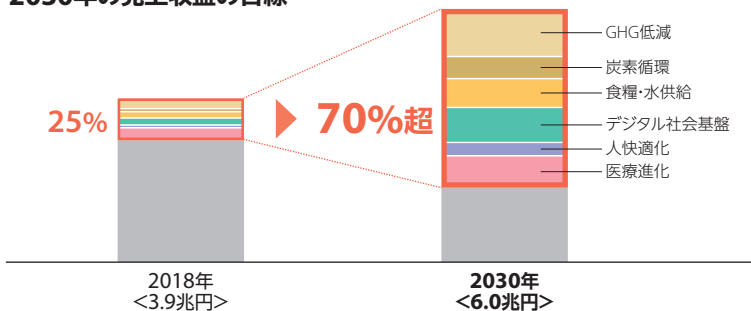
ビジネスモデル変革



成長事業を中心としたポートフォリオへ

社会課題解決型の事業群へとポートフォリオを果敢にシフトしていくことで、成長事業の売上収益構成比を、現在の約25%から2030年には70%超へと拡大していきます。

2030年の売上収益の目線



TOPIC CO₂回収と人工光合成による炭素循環システムの実現に向けて

人工光合成は、太陽光エネルギーと水から生産したクリーンな水素を活用し、発電所や工場の排ガスから回収されるCO₂をプラスチック等の原料となる基礎化学品に変換する技術です。三菱ケミカルは、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) が主導する“人工光合成プロジェクト”に取り組んでおり、2030年までに大規模実証を、2040年までに人工光合成を活用した炭素循環システムの社会実装をめざしています。2020年1月23日に首相官邸で開催された総合科学技術・イノベーション会議にて、革新的技術の代表例として、人工光合成のデモンストレーションを実施しました。

